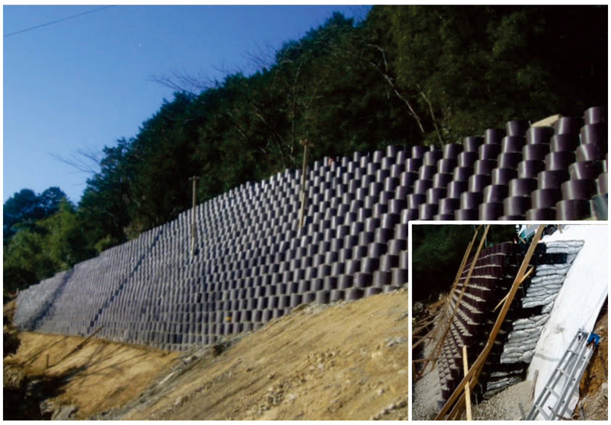
擁壁工

ジオセルを用いた立体ハニカム構造による擁壁工法
GEOハイウォール工法

NETIS登録番号：HK-200013-A

株式会社ジオベクトル

〒192-0371　北海道札幌市豊平区豊平1条8丁目1-21　野村ビル2F
TEL 011-820-1181　FAX 011-820-1182
URL https://www.geovectorjapan.com/
mail HP内問い合わせフォームあり
［拠点］東京支店（TEL.042-686-1605 〒192-0371　東京都八王子市南陽台2-10-4）



小型・軽量の高密度ポリエチレン製「ジオセル」を用いた擁壁工法（GEOハイウォール工法）

概　要

1．安定性：セル内部に現場発生の良質土、砕石などを充填拘束することと各層間の摩擦力で、構造物の一体性を確保し、高強度の構造体を形成することができる（500件強の実績で、崩壊事故は皆無である）。

2．壁高13.6mまで可能：小型・軽量の「ジオセル」を用いた、切り盛り両用の補強土壁工法である。

3．もたれ擁壁構造：展開した立体ハニカム構造を階段状に積み重ね、外力は試行くさび法、内部検討は層間に働く摩擦力で一体化した「もたれ式擁壁」である。

4．施工性：勾配変化、曲線部の施工も対応可能で、普通作業員で施工できるため、人手不足にも対応する。

●特許登録　特許第6917641号

堤体工事（千葉都）

砂防工事（東京）

法面修復工事（神奈川）

道路擁壁工事（長野）

メガソーラ工事（福島）

擁壁工（愛知）

堤防強化工事（鳥取）

治山工事（沖縄）

特　長

1．切盛土工が最低限
地山から擁壁までの展開長が最小で、用地も小さく、切り盛り土工量も最少となる。

2．大幅な工期短縮
コンクリート不使用、展開速度が速いこと（積みブロックと比較して工期は1/3～1/2となる）、多地点での同時施工が可能なことから、大幅な工期短縮となる。

3．大型重機不要
材料となるジオセルが小型・軽量で、使用重機はバックホウのみ。特に、狭隘の山岳道路の施工では最適である。

4．景観性とゼロカーボン
単粒砕石と発生土の混合による緑化で、景観性向上コンクリートの壁面体は不使用で、95％のCO_2削減となる。

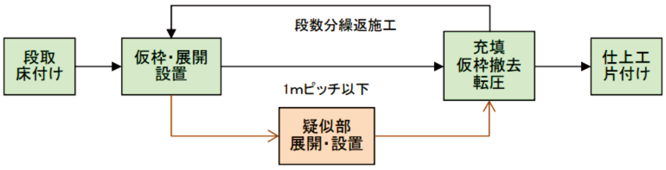
5．生産性向上
①充填材は近隣由来の自然石②大幅な工期短縮③小型軽量で運賃コストが少ない④普通作業員による人・工賃が軽減されるなど、発注者、施工者、専門工事業者の関係者全ての生産性向上に、大きく貢献する。

施工完了時

一年後

10年後

施工手順

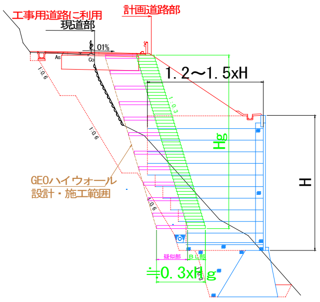


掘削・床付け

展開配置

繰返

充填・転圧

竣工

工法概要図（最小限の切り盛り土工）